

11月10日(火)5、6限に、「Exploration Day with Researchers 2」を実施しました。例年は名古屋大学の先生方をお招きして、模擬講義をしていただいています。今回は新型コロナウイルス感染拡大への対策として、規模を縮小するとともに「オンライン講座」としました。すべてをオンラインにし、5回線で講師の先生方と繋ぐという試みは本校では初でしたが、無事実施することができ、生徒は50分の講座を2つ受講することができました。また、オンラインだからこそ、少しでも活動的になるように、講師の先生方には要所で「生徒向けの発問」をお願いしました。

講義内容は高校生向けにアレンジしていただきましたが、それでも専門的な内容が随所に盛り込まれ、難しいものもあったようです。しかしそれが知的好奇心を大いに刺激し、大学での学びや研究、そしてその先のイメージをつかむことに繋がったようです。

### ◎オンライン講義を行っていただいた先生方

#### ●法学研究科総合法政専攻

姜 東局 (かとうがく) 先生

#### ●環境学研究科(理学部地球惑星科学科)

杉谷 健一郎 (すぎたに けんいちろう) 先生

#### ●理学研究科(理学部生命理学科)

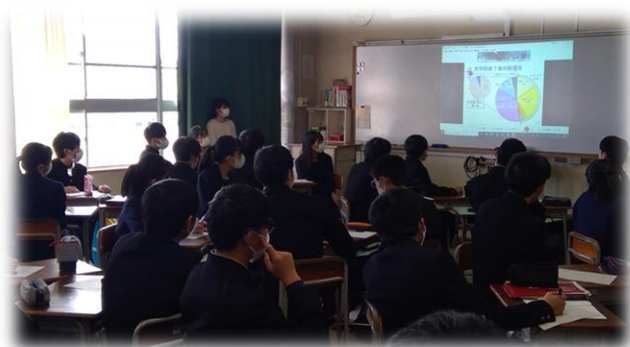
中野 俊詩 (なかの しゅんじ) 先生

#### ●総合エネルギー工学専攻

瓜谷 章 (うりたに あきら) 先生

#### ●植物生産科学専攻

村瀬 潤 (むらせ じゅん) 先生



<受講の様子①>



<受講の様子②>



<グループで話し合う様子>

### ◎ 生徒の感想

- ・人それぞれにその人の価値観があり、地域や文化、習慣の違いがあり、その差を分かった上で関わるのが大切だと分かった。相手の立場に立って共感することを大切にしたいです。生物学の研究については、どのように生物学が発展しているのかが分かり、とても勉強になりました。
- ・まず進路については「好き」を見つけるためにたくさんのモノを知ることが大切で、「好き」＝「想像力が掻き立てられる」ことだということを知ることができた。道はいつでも修正できるという言葉にすごく勇気づけられました。
- ・農学と科学が密接に関係していることを知って、すごくおもしろそうだと思います。メタンと言うと温室効果ガスのイメージが強くてあまり良い印象ではなかったけど、植物に対しては良い影響を与えることが分かり、モノの見方の大切さを学びました。
- ・太古の化石であるとされるものは自分が知らなかっただけでたくさん見つかっていることが分かった。太古の状態が分かる痕跡は1つを納得させるのに多くの時間を要するので、確定的に昔を研究していくのはとても大変だと感じた。地球での痕跡を火星の調査に生かすのは、さらに調査の難しい火星に行くことを考えれば、とても画期的だと思った。
- ・重水素の核融合によってエネルギーが発生するというのは初めて知りました。これが実用化されたらエネルギー問題が解決するということにはとても驚きました。地球の未来のために、ぜひ研究が進んで欲しいと思いました。